

リハビリテーション学部における産学連携推進の基盤整備

代 表 者 : 新宮 尚人(リハビリテーション学部)

分 担 者 : 泉 良太 (産学連携推進リーダー), 柴本 勇 (リハビリテーション科学研究科長),
俵 祐一 (理学療法学科), 飯田妙子 (作業療法学科), 佐藤豊展 (言語聴覚学科)

連 携 機 関 : 杏林堂薬局 ; 尾上智彦, 木下貢哉, 長嶋桃子, 深澤 優, 山田一仁,
眞保勇夫 (共栄プロセス), 平井 章 (十字の園資料館館長)

協 力 者 : 高山真希 (理学療法学科)

*当初の計画を基に記載する (COVID-19 流行前)。結果以降は COVID-19 流行後のものである。

【本プロジェクト発足までの経緯】

2019 年度のリハビリテーション学部事業計画の基盤整備として、学部の産学連携推進を開始した。

はじめに、他大学における企業との連携状況の調査 (needs 調査)、学部教員の企業との連携状況の調査 (seeds 調査) を行った。needs 調査については、他大学での産学連携の多くは企業と大学 (教員) との連携であり、具体的な内容としては、企業での健康講座開催、アプリ開発、歩行補助具作成などであった。seeds 調査については、本学部で企業と連携している教員は約 3 割であり、8 割の教員については部分的にあるいは十分連携可能であるという回答であった。しかし、現在、本学には産学連携についての担当部署がないため、手続きなどで不便なことが多いという意見があった。以上より、本学の体制整備に関する課題を以下のとおり明確化した。

課題 1 他大学では企業と教員の連携であるため、本学では、在学生が参加することとし、“教育”を中心に産学連携を行う。

課題 2 現在は業務 (教育・研究活動) として行うことができない体制であるため、授業や研究の一環として実施できるような環境を整える必要がある。そのためには、担当部署を設置し、コーディネートを行う必要がある。

【連携機関とともに課題を認識した経緯】

杏林堂薬局との顔合わせ

・現在、薬剤・栄養部門はあるが、運動部門が設置されていない。地域貢献イベントとして、様々な運動に関連する活動を実施しているので、ケガ予防やケガ後のフォローなどが行えると良い。まずは、教員と学生でイベントに参加し、学部で連携可能なことについて検討する。

共栄プロセスとの顔合わせ

・介護福祉機器の開発を行っている。医療職および学生目線での意見や工夫すべき点のアドバイスが欲しい。

【その課題解決に向けた目標設定】

2020 年度の産学連携推進の到達目標は企業と部分的に連携し、連携に必要な学内整備を明確化することとし、具体的な行動計画は、企業見学や企業イベントへの参加、連携可能な内容についての明確化、本学部教員の産学連携についてホームページ等で公表、企業との連携に必要な学内整備の明確化、学内周知のための連携活動内容発表会の開催とした。

【実施方法】

企業との連携について

- ・杏林堂薬局については、はじめに、イベントに参加し、学部として連携可能なことについて、学生、教員、協力者間で検討する。その後、検討可能なことについて準備を行い、イベントで学生主体のブース設置を目指す。
- ・共栄プロセスについては、教員と学生で企業訪問し、現在開発中の介護福祉機器を見学・体験し、現在の課題について、学生、教員、協力者間で検討する。その後、具体的な修正点や工夫点について統合し、学生主体で機器の開発準備に取り組む。

学内整備について

- ・本学部教員が現在実施している産学連携について、A4, 1枚程度でホームページにて公表し、本学部の seeds を企業に周知する。その際には、入試広報センターと連携して実施する。
- ・2つの企業と連携を進めるにあたり、学内での産学連携組織構築など、整備が必要な内容について明確化する。その際に、必要に応じて関連部署（地域連携推進センター、総務部）に相談する。

【地域へのフィードバック方法】

- ・杏林堂薬局については、地域貢献イベントの中で、参加者へのフィードバックを実施する。
- ・共栄プロセスについては、介護福祉機器の開発状況等を公開し、地域へのフィードバックを実施する。
- ・年度末に連携活動内容発表会を実施し、その内容をホームページにアップし、学内外に周知する。

【連携の結果について】

2020年度は対面での打ち合わせや企業イベント参加などが制限されたが、Zoomやe-mailなどを用い、学生、企業、教員間で打ち合わせを実施した。その結果、OT学科で園芸療法、PT学科で運動について、学生を中心に杏林堂と動画を作成することができた。全ての動画はYouTubeで閲覧可能である。2021年度はST学科も連携予定である。また、すべての企業とのやりとりは教員自身がコーディネートしており、学内での担当部署が必要であることが分かった。

【解決すべき課題】

今後、産学連携を推進していくにあたり、連携に必要な学内整備を確認することが必要であり、並行して、連携企業との関係を強化することが重要である。具体的には、継続して学生と企業で動画を作成し、連携内容のモデル化について検討し、可能であればイベント等に参加し、ブースでの地域貢献も実施する。連携内容については、本学ホームページおよび杏林堂ホームページ等で公表することで、広く地域に還元できると考える。